

問題 (20点)

HIT製作所(本社東京都)は横浜市に工場をもっており、本社会計から工場会計を独立させている。材料の発注と製品の販売は本社が行う。材料の納入業者には、工場内にある材料倉庫へ直接納入するように指示している。工場で製造された製品は、完成後ただちに本社に搬送され、本社内にある製品倉庫にて保管される。本社工場間取引に内部利益の付加はない。材料購入を含めて支払い関係はすべて本社が行っている。なお、2月1日における工場の元帳諸勘定残高は次のとおりであった。

残高試算表				(単位:万円)
	材 料	200,000		
	仕 掛 品	250,000		賃 金 ・ 給 料
	製 造 間 接 費	0		本 社
		450,000		120,000
		450,000		330,000
				450,000

下記の(1)～(5)は、当製作所の2月における取引の一部である。工場および本社において行われる仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当を思われるものを選ぶこととするが、工場で使用する勘定科目は上記残高試算表に示されているものに限る。

現 金	材 料	仕 掛 品	製 品
賃 金 ・ 給 料	預 り 金	買 掛 金	売 掛 金
売 上	製 造 間 接 費	売 上 原 価	本 社
工 場	当 座 預 金	機 械 減 価 償 却 累 計 額	

- (1) 材料 500,000 円を掛けにて購入し、当該材料が工場の材料倉庫に納入された。
- (2) 工場従業員への給与 800,000 円を現金で支給した。
- (3) 製品製造に関わる当月分の特許使用料(出来高払い)は、250,000 円であり、小切手を振り出して支払った。
- (4) 当月の機械の減価償却を行った。機械の減価償却費の年間見積額は 4,800,000 円である。
- (5) 製品 3,500,000 円が完成し、本社の製品倉庫に搬送・保管された。

氏名 \_\_\_\_\_

(解答用紙)

得点	_____ / 20
----	------------

	工 場 の 仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

	本 社 の 仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

	工 場 の 仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	材 料	500,000	本 社	500,000
(2)	賃 金・給 料	800,000	本 社	800,000
(3)	仕 掛 品	250,000	本 社	250,000
(4)	製 造 間 接 費	400,000	本 社	400,000
(5)	本 社	3,500,000	仕 掛 品	3,500,000

	本 社 の 仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	工 場	500,000	買 掛 金	500,000
(2)	工 場	800,000	現 金	800,000
(3)	工 場	250,000	当 座 預 金	250,000
(4)	工 場	400,000	機 械 減 価 償 却 累 計 額	400,000
(5)	製 品	3,500,000	工 場	3,500,000

氏名

(問題・解答用紙)

得点

/ 20

問 題 A社は、遠隔地に工場をもつことから、工場会計を独立させている。材料と製品の倉庫は工場に置き、材料の購入の支払いと給与の支払いは本社が行っている。なお、工場元帳には次の勘定が設定されている。(20点)

材 料 賃 金 製 造 間 接 費  
仕 掛 品 製 品 本 社

当月の次の取引について、工場での仕訳を示しなさい。

- (1) 製品用の素材 3,000kg (購入価格 800 円/kg) および補修用材料 100kg (購入価格 200 円/kg) を倉庫に搬入した。なお、購入に際し、本社は、20,000 円の買入手数料を支払っている、
- (2) 工場での賃金の消費額を計上した。直接工の作業時間の記録によれば、直接作業時間 2,760 時間、間接作業時間 100 時間であった。当工場で適用する予定総平均賃率は 1,500 円である。また、間接工については、前月賃金未払高 200,000 円、当月賃金支払高 1,800,000 円、当月賃金未払高 150,000 円であった。
- (3) 当月に判明した材料の棚卸減耗について、90,000 円を計上した。
- (4) 直接作業時間を配賦基準として製造間接費を各製造指図書に予定配賦した。なお、当工場の年間の製造間接費予算が 30,240,000 円、年間の予定直接作業時間は 33,600 時間である。
- (5) 当月に完成した製品を倉庫に搬入した。なお、製品に要した製造直接費は 5,500,000 円であり、完成品の直接作業時間は 2,250 時間であった。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

問 題 A社は、遠隔地に工場をもつことから、工場会計を独立させている。材料と製品の倉庫は工場に置き、材料の購入の支払いと給与の支払いは本社が行っている。なお、工場元帳には次の勘定が設定されている。(20点)

材 料 賃 金 製 造 間 接 費  
仕 掛 品 製 品 本 社

当月の次の取引について、工場での仕訳を示しなさい。

- (1) 製品用の素材 3,000kg (購入価格 800 円/kg) および補修用材料 100kg (購入価格 200 円/kg) を倉庫に搬入した。なお、購入に際し、本社は、20,000 円の買入手数料を支払っている、
- (2) 工場での賃金の消費額を計上した。直接工の作業時間の記録によれば、直接作業時間 2,760 時間、間接作業時間 100 時間であった。当工場で適用する予定総平均賃率は 1,500 円である。また、間接工については、前月賃金未払高 200,000 円、当月賃金支払高 1,800,000 円、当月賃金未払高 150,000 円であった。
- (3) 当月に判明した材料の棚卸減耗について、90,000 円を計上した。
- (4) 直接作業時間を配賦基準として製造間接費を各製造指図書に予定配賦した。なお、当工場の年間の製造間接費予算が 30,240,000 円、年間の予定直接作業時間は 33,600 時間である。
- (5) 当月に完成した製品を倉庫に搬入した。なお、製品に要した製造直接費は 5,500,000 円であり、完成品の直接作業時間は 2,250 時間であった。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	材 料	2,440,000	本 社	2,440,000
(2)	仕 掛 品 製 造 間 接 費	4,140,000 1,900,000	賃 金	6,040,000
(3)	製 造 間 接 費	90,000	材 料	90,000
(4)	仕 掛 品	2,484,000	製 造 間 接 費	2,484,000
(5)	製 品	7,525,000	仕 掛 品	7,525,000

- (1) 買入手数料を「材料」に含めて、本社が支払っている。

$$800\text{円/kg} \times 3,000\text{kg} + 200\text{円/kg} \times 100\text{kg} + 20,000\text{円} = 2,440,000$$

- (2) 直接労務費  $1,500\text{円/時間} \times 2,760\text{時間} = 4,140,000$

$$\text{間接労務費 直接工間接作業時間 } 1,500\text{円/時間} \times 100\text{時間} = 150,000\text{円}$$

$$\text{間接工賃金 当月賃金支払高} + \text{当月賃金未払高} - \text{前月賃金未払高}$$

$$= 1,800,000\text{円} + 150,000\text{円} - 200,000\text{円} = 1,750,000\text{円}$$

- (3) 材料の棚卸減耗は、製造間接費となる。

- (4)  $(30,240,000\text{円} / 33,600\text{時間}) \times 2,760\text{時間} = 2,484,000\text{円}$

- (5)  $5,500,000\text{円} + (30,240,000\text{円} / 33,600\text{時間}) \times 2,250\text{時間} = 7,525,000\text{円}$